

No. 1152

シーズンたけなわ

— 群馬・水上 —

例年になく激しい雪が降り続く群馬県・水上。谷川連峰の山ろくにあり、関東地方では最も古いスキー場として知られる大穴スキー場は今スキーヤーで満員。

都会の若者や地元のチビっ子たちがスキーを楽しんでいます。折から開かれた雪まつりでは、雪ぞり競走が人気の的。まだまだ続く雪の季節、シーズンたけなわと言った所です。

30年ぶりの故郷訪問

— 韓 国 —

昭和51年1月25日、羽田空港。北朝鮮系在日朝鮮人の韓国墓参団の一行がソウルに向けて出発した。

目に見えぬ日本の中の38度線に故郷への訪問や肉親との再会が阻まれて30年。しかし去年の秋から在日大韓民国居留民団のはからいで、ようやくこれらの人々の故郷への訪問が突った。

羽田を発って2時間あまり、墓参団の一行は金浦空港に到着。トラップをおり踏みしめる地はなつかしい故郷に続く道であった。空港には、朝から肉親を探す多勢の人々がつめかけ、到着出口を見守る。朝鮮動乱から25年。その間夢でしかなかった肉親との再会に胸ふるわせる人々。そこには分断をこえる肉親のきずながあった。

分断の悲劇を生んだ38度線は今も緊張の中にある。民族の悲願祖国統一。板門店で話し合いも、1973年8月以来中断されたままだ。

墓参団を迎えたソウルは旧正月を前ににぎわっていた。翌1月26日、それぞれの故郷に帰る前、母国の見学に旅立った。

何十年ぶりに見る母国の大地。一行はウルサンの石油コンビナートやポハンの製鉄所、現代造船所などを見学。行く先々で暖かい歓迎を受けた。今大きく姿を変えようとする母国、その発展に目をみはる墓参団。

古都慶州、民族文化の中心地、仏国寺は、静かなたたずまいを見せ一行を迎えた。

平和であった時代の少ない祖国、朝鮮半島。墓参団の一行は、祖国の統一を願い、平和な日々が訪れるのを祈り、それぞれの故郷に向った。